

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4090100043
法人名	有限会社 田代総合サービス
事業所名	グループホーム なごみ吉志
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市門司区吉志1丁目8番42号 (電話) 093 - 481 - 8833

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年2月26日	評価確定日	平成20年3月22日

【情報提供票より】(平成20年2月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	8人, 非常勤 0人, 常勤換算 5.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨スレート葺き造り 2階建ての2階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	(光熱水費)15,500円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,134 円			

(4) 利用者の概要(2月17日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	3 名	要介護2	0 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	64 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	慈恵曽根病院 / 菜の花クリニック
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームなごみ吉志は、現代モダンな建物でありながら、シックで落ち着いた空間の工夫があり、1階が同法人が運営する小規模多機能型介護施設、2階がグループホームとなっている。地域との人間関係を尊重しながら、これまでの暮らしの継続を理念に掲げ、地域密着型サービスとしての役割を果たしていくために、小規模多機能型介護施設・グループホームの機能を活かした取り組みを実践している。入居者は、皆思い思いの過ごし方をしており、なごやかでゆったりと過ごされている。管理者の認知症ケアの経験と実績及び職員の入居者への思いにより、入居者は地域の中で安心して暮らせる居場所を見出した安堵感に包まれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の意義や目的を全職員に伝え、自己評価に取り組んでいる。また、外部評価の結果をふまえ、課題を明らかにし、改善に向けて取り組みたいと考えている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、定期的に運営推進会議を開催している。サービスの状況や行事報告などを行い、地域での行事などの情報収集の機会となっている。今後は、更に運営推進会議の役割を「社会参加」のきっかけとしてとらえ、会議の参加メンバーの人脈を活かすなど、地域における活動の広がりを期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	行事などの後に家族の悩みや相談を受ける機会を設けるなど、何でも言っただけの機会をつくっている。出された意見や要望などは、ミーティングで話し合い、運営に反映していくように努めている。家族会も設置する予定がある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民の一員として、町内会に加入している。地域の文化祭や祭り、小学校の運動会の参加など積極的に交流を図っている。また、近郊の高齢者ケアの施設の行事などにも参加し、地域におけるネットワークを高めている。今後は、介護保険の相談窓口など地域へのアピールを活発に行うことを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして、「目配り、気配り、心配り」を理念の中心に掲げ、これまでの暮らしの継続としての地域の関わりを高める運営を行っている。理念の中に地域との関係の強化をしっかりと謳っており、地域密着型サービスとしての役割を果たしていくことを明確に打ち出している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	エレベーターの玄関前に理念を掲示し、職員の認識を高めている。ミーティングや申し送り時にも、理念を振り返り確認している。職員一人ひとりが理念について具体を理解し、理念についての意思統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として、町内会に加入している。地域の文化祭や祭り、小学校の運動会の参加など積極的に交流を図っている。また、近郊の高齢者ケアの施設の行事などにも参加し、地域におけるネットワークを高めている。今後は、介護保険の相談窓口など地域へのアピールを活発に行うことを期待したい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義や目的を全職員に伝え、自己評価に取り組んでいる。また、外部評価の結果をふまえ、課題を明らかにし、改善に向けて取り組みたいと考えている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定期的に運営推進会議を開催している。サービスの状況や行事報告などを行い、地域での行事などの情報収集の機会ともなっている。今後は、更に運営推進会議の役割を「社会参加」のきっかけとしてとらえ、会議の参加メンバーの人脈を活かすなど、地域における活動の広がりを期待したい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からの紹介により、他の市町村の職員や事業者の見学を受け入れている。今後は、介護保険者としての市担当者との情報交換により、地域密着型サービスの実情や認知症ケアの現場の実態を報告するなど、市町村担当者の事業の理解を高めていく連携が期待される。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	外部研修やミーティング・会議などを通じて、権利擁護や成年後見制度の理解を高めている。また、入居者の必要に応じて職員が随時対応できるように取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会が多く、面会時には、入居者の状態や暮らしを随時報告している。入居者一人ひとりのアルバムがあり、面会時に写真などを見てもらったり、ケース記録・金銭出納帳も確認していただいている。今後は定期的に「なごみ通信」を発行する予定である。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事などの後に家族の悩みや相談を受ける機会を設けるなど、何でも言っていただける機会をつくっている。出された意見や要望などは、ミーティングで話し合い、運営に反映していくように努めている。家族会も設置する予定がある。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同法人が運営する小規模多機能型介護施設が1階、グループホームが2階となっており、小規模多機能型介護施設の利用者がグループホームに入居するケースが多く、なじみの関係を築きながら入居にいたるため、入居者のダメージに配慮した入居となっている。また、職員の人事配置など一定の期間を配慮しながら取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の募集・採用にあたっては、性別や年齢などを理由に採用から排除することはない。採用にあたっては、専門性・思いやり・学習意欲や人を大切にする資質などを考慮している。職員の自己実現を図り、ストレスを軽減するためのサポートを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	市の社会福祉協議会から研修情報を入手でき、職員のスキルアップを図るために受講できるように支援している。今後も積極的に人権教育や啓発活動に取り組んでいきたいと考えている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	職員は、外部研修を含め、なるべく多くの研修受講ができるように支援している。研修受講にあたっては、毎月の勉強会で発表してもらうなど伝達研修を行い、職員のスキルアップを図っている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	認知症・草の根ネットワークに加入し、同業者との情報交換・交流を図っている。今後は更に交流を発展させ、職員の交換研修や相互研修会などを通して、同業者のネットワークを高めていきたいと考えている。また、グループホーム協議会にも加入する予定がある。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	職員とのなじみの関係に考慮し、同法人が運営する1階の小規模多機能型介護施設と2階のグループホームの職員の交代を一定期間行い、職員が変わってもダメージを受けないように配慮しながら人員配置を行っている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	共に暮らすという視点で、入居者のできること「野菜の皮むき・料理の盛りつけ・配膳・食器洗い・食器拭き・洗濯物干し・選択たたみ・ゴミ捨て・買い物・荷物持ち・車椅子利用者の介助」を楽しみながら役割を果たしていただけるように支援している。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式を採用し、入居者の全体像を把握するように努めている。入居者一人ひとりの日記帳を用意し、入居者その日の天気や気分など書いていただける工夫を行い、入居者が日々の暮らしの中で生きがいを感じていただけるように取り組んでいる。センター方式を介護計画に反映していくことを期待したい。</p>		<p>センター方式の活用に向けて、日々の入居者の何気ない言葉などをメモを取り、1ヶ月ごとに総合して、入居者の思いや意向を把握するなど工夫が望まれる。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者が自分らしく暮らせるように入居者や家族の意見を把握し、職員全員でカンファレンスを行っている。今後は重点的に取り組んでいる身体的機能の維持・リハビリなど短期目標に位置づけ、日々の取り組みをわかりやすくすることが求められる。また、看護計画に医療面の注意・薬の副作用・歩行訓練など具体的に1枚のシートにまとめられるなど工夫が望まれる。</p>		<p>日々のケアの中で重点的に行っているリハビリなどに対し、短期目標を設定し、その効果を測ることが求められる。また、医療連携により、看護計画を1枚のシートにまとめるなど工夫が求められる。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ケアプランシートがあり、日々の介護実施表があり、サービスごとに実施の記録がある。3ヶ月ごとのモニタリングによって、問題点や重要課題・到達目標・具体的対策・評価を確認するようにしている。状態変化や本人・家族の要望に応じて介護計画の検討・見直しを行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携加算により、入居者や家族の負担となる受診や入院のサポート・医療処置を受けながらの暮らしの継続・重度化や終末期に対応できる体制など、医療との連携を活かした臨機応変かつ柔軟な取り組みを行っている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>これまでの医療機関との関係を継続し、診療できるように支援している。また、事業所の協力医療機関や歯科医の訪問診療があり、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	終末期における意思確認書を作成している。今後は、事業所として終末期に対応していく看取りのケアについて、家族・医師・看護師を交えて話し合う機会を持ち、対応方針を定めていく予定である。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	職員は、入居者のプライバシーに関して守秘義務を守り、入居者の誇りやプライバシーを損ねないように、基本的に丁寧語で話すようにしている。入居者の記録などは、事務所に保管・管理している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者の体調や天候などに配慮しながら、1日の暮らしの流れの中で、無理のない範囲で役割を果たしていただいたり、その日その日の状況によって自然体で過ごしていただけるように取り組んでいる。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	週1回は入居者と買い物に行き、入居者の好みのメニューを取り入れている。入居者は、調理・盛りつけ・片づけなどを行い、入居者と職員が共に楽しく食事ができるように取り組んでいる。また、晩酌も楽しんでいる方もおられる。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴は基本的に1日おきにしているが、入居者のその日の希望や気持ちにそった入浴ができるように支援している。入浴の際の言葉かけや対応などチームプレーで行うなど一人ひとりに合わせた入浴支援に努めている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	得意分野で一人ひとりの力を発揮していただけるように役割を担っていただいている。また、畑仕事の好きな方は、春菊やネギの収穫を楽しんでいただくなど支援している。街なかの交通アクセスの良さを活かし、散歩・買い物・ドライブなどを楽しんでいただくように支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	季節を感じていただくために1週間に1回は好きな物を買っていただく買い物支援を行っている。日常的には、散歩を楽しんでいただき、近郊の農事センターやショッピングセンターなどへのドライブも行っている。天候の良い場合は、できるだけ外に連れ出すように支援している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
29	68	鍵をかけないケアの実践	入居者の自由な暮らしを尊重し、職員の見守りを徹底し、入居者の状態を把握しながら、外出の気配があれば、安全面に配慮し声をかけたり、一緒についていくなど鍵をかけないケアを実践している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	マニュアルを作成し、年2回入居者と共に避難訓練・避難経路の確認・消火器の使い方など定期的に行っている。地域の協力は運営推進会議で取り上げ、今後、協力体制を築いていく予定である。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	食材は専門の業者より購入しており、1日1,600カロリーを基本に献立が立てられ、栄養バランスに優れた内容となっている。水分摂取量は、1日1,000～1,200ccを目安に摂取状況を記録している。個別の残食量も記録されている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間は広くゆったりしており、ベランダから山や小学校が見え、季節感を感じることができる。共用空間のリビング・ダイニングの横に和室が確保され、昔ながらの茶箆筥が置かれ、家庭的な調度品の工夫があり、居心地の良い空間となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	基本的には居室は洋室だが、入居者のこれまでの暮らしの継続を尊重し、畳が敷かれた居室もある。入居者は、テレビや箆筥を持ち込まれ、居室を区切ったり、思い思いの住まいづくりを支援している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			